

「データサイエンス講座」

8月28日(月)、普通科1年・情報商業科1年の生徒を対象に「データサイエンス講座」を実施しました。技術革新の進展など社会の変化に伴って新しい学問が誕生しており、文理融合型の学びとして注目されているのが「データサイエンス」です。

今回は講師として、新井 賢一 先生(早稲田大学理工学部物理学科卒業。同大学院理工学研究科修士課程修了・博士(理学)取得。NTT(日本電信電話株式会社)・NTT ミュニケーション科学研究所 研究主任・東京情報デザイン専門職大学)をお迎えしてお話をいただきました。



デジタル化やグローバル化の進展、環境への配慮など社会の変化に応じて、これまでの文系・理系といった枠組みには収まらない分野が注目されています。その一つが「データサイエンス」。こうした分野を学び、研究していくには、文系と理系の両方の知識が必要です。

データサイエンスは膨大なデータを収集・分析し、ビジネスにおいて新しい価値を創造する研究であり、情報処理能力や統計知識、人工知能を用いて集積したデータを解析し、さまざまな業界で導入されていることを生徒たちに説明していただきました。

高校生が今学んでいることは将来に必ずつながるのでしっかり勉強して、社会に役立つ知識・技能を身につけてほしいとアドバイスもいただきました。

受講した生徒からは「難しい内容であったが、これからの時代には必要な知識だとわかった。」

「データサイエンティストという職業に興味をもった。」

「これから、よく調べてみようと思った。」といった感想がありました。

